

令和5年度 呉市立仁方中学校 学校経営計画

1 学校教育目標

自ら学び 心豊かな生徒の育成 ～守破離を軸にした教育活動の推進～

・「自ら学び」…希望する進路を実現できる力（入試問題が解ける、自己表現ができる）を付ける

◆自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成

→明確な目標やゴールイメージを持たせることを大切にしましょう

・「心豊かな」…「学校に行きたい」「仲間に出たい」「先生に出たい」という心を育てる

◆協働的に活動する楽しさを知っている生徒の育成

→学校生活のあらゆる場面でその楽しさを体感させてやりましょう

2 経営理念

(1) ミッション（学校の使命）

生涯にわたり生き抜く力や、社会に貢献できる人としての素養を身につけた生徒の育成。

(2) ビジョン（めざす学校像）

知・徳・体をバランス良く育成し、地域・保護者・生徒から信頼される学校。

3 めざす生徒像

「守・破・離」の精神を貫く生徒

～ 型を基盤に、自分の個性を発揮し、生き方を自己選択・自己決定できる～

守

型を学び、基礎基本の徹底を図る

破

型を基盤に、自分の個性を見つけ伸ばす

離

型を基盤に、自分の個性を発揮し、生き方を自己選択・自己決定し、自立する

4 学びの風土づくり

仁方中メソッドの継承と発展 ～時を守り、場を清め、礼を正す～

時

を守る

常に「時」間を意識して、一歩先を見通した生活をしよう

場

を清める

緊張感のただよう中、みんなが清々しい気持ちで活動できる「場」をつくろう

礼

を正す

相手を感動させ、心地よくさせる、「礼」節や所作を身につけよう

5 めざす教職員像

教えきる・かかわりきる・育てきる ～高い専門性、豊かな感性、使命感と責任感～

- (1) 教育目標を理解し、相互の信頼に基づく協働体制のもと、生き生きとした学校づくりに努める。
- (2) 一人一人の生徒の心を大切に、生徒とともに伸びようとする姿勢で、教育目標の実現に努める。
- (3) 生徒・保護者・地域とのつながりを深め、地域社会に貢献できる学校づくりに努める。
- (4) 教育公務員としての自覚を持ち、校務、業務等の適正化と法令遵守に努める。

6 今年度の重点項目

(1) 確かな学力

① 授業改善の取組

- ・全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫を共有し「考える授業づくり」を推進しましょう。
- ・「考える授業づくり」の基盤となる生徒指導の三機能を全員で実践していきましょう。

② 学びの風土づくりの推進

- ・授業開始と終わりの時間を守り、着ベルと授業開始の黙想の指導を徹底しましょう。
- ・「N中メソッド」を柱にした行動統一で「時・場・礼」を確立していきましょう。

③ 基礎学力の定着と向上

- ・コグトレ・毎日ノート・読書活動を通して学びの土台づくりを進めましょう。
- ・キュビナを効果的に活用して基礎学力の向上を図りましょう。

(2) 豊かな心

① 学校行事・生徒会活動・縦割り活動の充実

- ・仲間と協働し一生懸命活動することの楽しさを体感させ、それが自分たちの成長に繋がることを理解させましょう。

② 「挨拶・無言清掃・ボランティア活動」を柱とした道徳教育の推進

- ・生徒が主体的に取り組む「挨拶」「無言清掃」を充実させましょう。
- ・「ボランティア活動」の活性化をはかり地域貢献の心を育みましょう。

③ 総合的な学習の時間を軸にした自己表現活動の充実

- ・総合的な学習の時間を通して生徒の自己表現力の更なる伸長を図りましょう。
- ・自己表現活動の充実を集団づくりや自己有用感・自己肯定感の向上につなげましょう。

(3) 健やかな体

① 「体力テスト」「呉チャレンジマッチスタジアム」の活用

- ・「新体力テスト」「呉チャレンジマッチスタジアム」などで目標を明確に示しながら主体的に体力向上に取り組ませましょう。

② NSR を核にした不登校対応体制の確立

- ・NSR の計画的・組織的運営を軸にした不登校対応で生徒の居場所づくりを推進しましょう。
- ・計画的な教育相談により生徒の心に寄り添い積極的な生徒指導を推進しましょう。

③ 外部講師を活用した安全教育の推進

- ・外部講師を活用して「薬物乱用防止教育」「がん教育」「命の教育」等を計画的に推進しましょう。

(4) 信頼される学校

① 不祥事ゼロ

- ・明るい職場づくりのために互いにコミュニケーションを図り、声を掛け合ひましょう。
- ・定期的な研修を確実に行きましよう。

② 情報発信

- ・生徒指導規程を生徒保護者に周知し、規程に則った指導を組織で行っていきましょう。
- ・学校だより、学年だより、HIP等で、学校・学年・学級等の状況を伝えていきましょう。

③ 業務改善

- ・課題や仕事を一人で抱え込まず、学年・分掌・関係者・管理職と相談し、情報を共有しながら組織で取り組んでいきましょう。
- ・計画的かつ効率的に取り組むことで、定時退校日、部活動休養日等を確実に実施し時間外勤務を縮減していきましょう。

学校評価計画に基づく教育活動と行動統一